

ACT とは

ACT は Dvorak 配列のキーボードをベースに、効率良く日本語の読みを入力する方法です。QWERTY 配列では定評のある拡張ローマ字入力『AZIK』での考え方をより大胆に発展させ、さらに快適で効率良い日本語入力が行なえるようになりました。

英文(アルファベット)入力では第2のスタンダードともいえる Dvorak 配列をベースにしていますので、いわば日・英両用の入力方法ともいえます。

基本的考え方

通常のローマ字は、子音キー＋母音キーの2～3ストロークで読みを入力します。ストロークの組み合わせの空いている部分、たとえば子音キー＋子音キーというストロークに文字列を割当てようという考え方です。

割当ての方針にはいろいろなものが考えられますが、ACT では AZIK と同様に、**指の動き**が覚えやすいものであることを基本としています。

読みとストロークの一覧表³をみると大変な数の組み合わせがあって面食らってしまうかもしれません。しかし、とりあえず打つために覚えることはごくわずかです。後は打ちやすい、と思えるものから指が勝手に覚えてくれます。表を覚える必要はなく、**指の動き**でイメージすればよいのです。

※ACT の命名

通常のパソコンのキー配列をソフトウェアで Dvorak 配列に変更した状態で、

1 この PDF は、木村清さんが<http://www1.vecceed.ne.jp/~bemu/act/act_doc.html> にて公開している文書を、木村さんの承諾を受けて、変換した物である。

2 原文の最終更新日は 2003/12/28 である。

3 『ACT』変換テーブル一覧 <http://www1.vecceed.ne.jp/~bemu/act/act_ref.html>

QWERTY 配列での AZIK の打鍵を行なうと【A ; C T】と入力されることから ACT と名づけています。Dvorak 配列上での AZIK、という意味と、AZIK よりさらに効率アップしたということで、3 文字に縮めて ACT としました。

特徴・効果など

- Dvorak 配列をベースとしているため、日本語のみならず英文も格段と打ちやすくなります。配列自体 QWERTY 配列よりも覚えやすいです。
- 日本語に特徴的な頻出文字列を打ちやすくなおかつ少ない打鍵数で打てるように工夫してあります。その結果、従来の QWERTY 配列上のローマ字入力と比べて単純な打鍵数では約 20% 減少します。また、ホーム段使用率は約 2 倍になります。全打鍵のうちの約半分はホームポジションから手を動かさずに打鍵できます。
- 一般的なローマ字綴りとほぼ同じ打ち方でも入力できます。
- 特に、拗音を打ちやすくしています。

注意点

指の動きで覚えることを前提とした打ち方ですので、タッチタイピングがある程度できる(あるいはこれからマスターする)ことが ACT を快適に使う必要条件です。(以下の解説で、とてもローマ字とは思えないような綴りが出てきますが、綴りではなく、指の動きが連想できないと修得は難しいでしょう。)

準備

実際に ACT を使用するためには、パソコンの設定が以下のようにになっている必要があります。

- キー配列が Dvorak 配列になっていること(記号などの配列もオリジナルの Dvorak 配列に準じたもの)
- 日本語 IME でローマ字カスタマイズが ACT 用になっていること

推奨環境

- Dvorak 配列にするためには「猫まねき」などのキー入れ替えユーティリティを使います。
- ACT の各種拡張を最大限に適用するためには、WXG などのローマ字カスタマイズの制限が少ない IME を使います。
- ATOK2006 で ACT を使う方法については[こちら](#)(2006.8)

基本的な打ち方

- ・ 拗音以外はほぼ通常のローマ字と同じ

通常のローマ字変換規則と異なる点

通常のローマ字変換規則(たとえば [JIS の企画案](#))との互換性については以下のようになっています。詳しくは[本サイトの JIS 規格との互換性](#)⁴を参照してください。

1. 清音、濁音は「カ行」を除いて普通のローマ字と同じです。「カ行」の子音キーは[C]となります。例：か【C A】、き【C I】、く【C U】、け【C E】、こ【C O】
2. 促音「っ」は、左手上段小指の[']キーです。通常のローマ字のように子音を2度打ちするのではありません。(Dvorak 配列の実装によっては左手上段小指のキーが[*]となるものもあります。)
3. 撥音「ん」はほとんどの場合後述の撥音拡張で入力できますが、単独の「ん」を入力するには【N N】と打ちます。
4. 拗音は次節以降のように ACT 独自の打ち方となります。通常のように[子音キー]+[Y]+[母音キー]でも打てますが推奨しません。また、頻度の少ない特殊な拗音はサポートしていません。拗音文字(小さなゃゅょなど)を単独で入力するには[L]を前置します。(詳細は[JIS 規格との互換性](#)⁵)。
5. 外来語に出てくる長音符「ー」は[-]キーを使います。Dvorak 配列では[-]キーは右手小指拡張位置です。QWERTY 配列よりもずっと打ちやすい位置です。

例

過去 【CACO】、聞く 【CICU】
国家 【CO'CA】、結果 【CE'CA】
モーツァルト 【MO-TULARUTO】

4 JIS 規格との互換性 <<http://www1.vecceed.ne.jp/~bemu/act/jisroma.html>>

5 Ibid.

拗音の打ち方(基本)

- ACTでは特に拗音を打ちやすくしている
- 綴りではなく、動かしやすい指を割当てて

拗音は[子音キー]+[拗音化キー]+[母音キー]の3ストロークで入力します。

通常のローマ字綴りでは拗音化キーは[Y]キーでした。ACTでは、子音キーと同じ段(同じ並び)の**人差し指**か**薬指**のどちらか打ちやすい指、としています。

- 第1ストロークが中指、薬指、小指の場合は、拗音化キーは**人差し指**となります。
- 第1ストロークが人差し指の場合は、拗音化キーは**薬指**を使います。
- 例外：ピャ行は子音キーが左手なので、拗音化キーとしてはホームポジションの**薬指**である[N]キーを使います。

拗音化キーとして人差し指キー(G,H,M)を使うもの

キャ行、リャ行、チャ行、ニャ行、シャ行、ジャ行

	'	,	.	P	Y	F	G	C	R	L		
							キャ	リャ				
	A	O	E	U	I	D	H	T	N	S		
							チャ	ニャ	シャ			
	:	Q	J	K	X	B	M	W	V	Z		
							ジャ					

例

許可【CGOCA】、乗車【ZMOUSHA】、社長【SHATHOU】

拗音化キーとして薬指キー(R,N,V)を使うもの

ギャ行、ヂャ行、ヒャ行、ビャ行、ミャ行、ピャ行

	'	,	.	P ピャ	Y		F	G ギャ	C	R	L		
	A	O	E	U	I		D ヂャ	H ヒャ	T	N	S		
	:	Q	J	K	X		B ビャ	M ミャ	W	V	Z		

例

逆【GRACU】、病気【BVOUCI】、発表【HA'PNOU】

諸行無常【SHOGROUMUZMOU】

拗音の打ち方(外来語)

- 2ストロークの拗音は通常のローマ字入力とほぼ同じ
- 3ストロークの外来語の拗音は指の動きで覚える(ティ、ディなど)
- さらに特殊なものは無理せず、[L]を前置する

ファ行、ヴァ行は、英語の綴りに準じて子音キーとしてそれぞれ、[F]、[V]を使います。拗音化キーは使わず2ストロークで打ちます。

例

ファイト 【FAITO】、ヴォーカル 【VO-CARU】

「ティ」や「ディ」は、[子音キー]+[その下のキー]+[母音キー]で打ちます。綴りではなく、指の動きで覚えてください。

例

ティーパーティ 【TWI-PA-TWI】、ディスク 【DBISUCU】、テュートリアル 【TWU-TORIARU】

「ウォ」はWの次に隣のMを使って拗音化します。

例

ウォーター 【WMO-TA-】、ウォーク 【WMO-CU】、ウォン 【WMONN】、ウォッシュ 【WMO'SHU】

さらに特殊な拗音に出てくる、拗音文字(小さな「ゃゅょ」など)を単独で入力するには[L]を前置します。

例

ツイッター 【TULITA-】、クワルテット 【CULWARUTE'TO】

撥音拡張と2重母音拡張

- 撥音拡張は母音の下キー
- 二重母音拡張は母音の上キー

2ストロークめあるいは3ストロークめの[母音キー]を打つ代わりに、[撥音拡張キー]あるいは[2重母音拡張キー]を打つことで、それぞれ「母音+ん」、あるいは「2重母音」を入力することができます。

a	i	ou	ei	uu	(注)ui		F	G	C	R	L		
'	,	.	P	Y									
A	O	E	U	I		D	H	T	N	S			
ann	onn	enn	unn	inn		B	M	W	V	Z			
;	Q	J	K	X									

[撥音拡張キー]は対応する母音の下キーです。単独でも機能します。つまり、1ストロークめに打った場合でも有効(あ行+ん)です。

例

完全【C;ZJ】、凡人【BQZX】、ドンファン【DQF;】、安全【; Z J】、温泉【Q S J】

[2重母音拡張キー]は対応する母音の上キーです。単独では機能せず必ず2ストロークめ以降に使います。

Yを拗音入力の2ストロークめとする従来のローマ字綴りとの互換性を維持するときには、Yには2重母音拡張を割当てません。しかし、実際に使ってみると拗音を打つのにYを使うのはあまりに打ちにくく、あえて互換性を重視しなくてもよいともいえます。このときは図のように「ui」を割当てます。

例

高校生【C,C,S.】、同窓会【D,S,C'】、会場【C'ZM,】、放送【H,S,】、優秀【YPSHP】

注：「あ行」の2重母音は、綴りどおり打ちます。

例

愛情【AIZM,】、慶應【C.OU】、英雄【EIYP】

ヤ行、パ行の互換打ち

- ・ 打ちにくいパターンは、左右対称位置の指で代用

子音キーが左手である、ヤ行、パ行はずいぶん打ちにくいと感じるものです。そこで、打ちにくいパターンについては、左手で母音キーなどを打つ代わりに右手の左右対称位置の指で打てるようにしています。

ヤ行の互換キー

	g	h	m	v	z
y	ゆう	ゆ	ゆん	よん	やん

例

余裕【YOYG】、湯船【YHBUNE】、ヤングを読んだ【YZGUWOYVDA】

パ行の互換キー

	s	d	h	t	z	b	m	w	v
p	ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぱん	ぴん	ぷん	ぺん	ぽん

例

パピルス【PSPDRUSU】、コッペパン【CO'PTPZ】、ピンポン【PBPV】

(*) 実際使ってみると、この打ち方はややしっくりこない、というのが本音です。
もうすこしすっきりする方法がないか試行錯誤中です。(2006.8)

頻出拗音の省略打ち

- ・ 「しゅう」「しょう」などのよく出てくる拗音は、同じ段の2ストロークで打てる
- ・ ゆう：[子音キー]+[同段中指]
- ・ よう：[子音キー]+[同段小指]

拗音では、「uu」「ou」という2重母音を取るケースが多いです。前述の2重母音拡張を使えば3ストロークで打つことはできます。しかし、左手をなるべくホームポジションに置いておいた方が楽なので、右手の2ストロークだけで打てる省略形を用意しています。

なお、外来語だけに出てくると思われる読みについては「う」の代わりに「ー」を割当てています。

上段

	中指 C	小指 L
P	ぴゅう	ぴょう
F	ふゅー	ふぉー
G	ぎゅう	ぎょう
C	きゅう	きょう
R	りゅう	りょう

中段

	中指 T	小指 S
H	ひゅう	ひょう
T	ちゅう	ちょう
N	にゅう	にょう
S	しゅう	しょう

下段

	中指 W	小指 Z
B	びゅう	びょう
M	みゅー	みょう
W		ウォー
V	ヴゅー	ヴぉー
Z	じゅう	じょう

例

表情【A I Z Z】、商業【S S G L】、入場【NTZZ】、フュージョン【FCZMQ】、
ウォーニング【WZNXGU】

拗音+ク・ツの省略打ち

- ・ 拗音+ク：3ストロークめを右手の母音と対称位置の指で打つ
- ・ 拗音+ツ：3ストロークめを右手中指で打つ

以下の、拗音のあとに「ク」や「ツ」がくる読みは3ストロークで打てる省略形を用意しています。

しゃく、しゅく、しょく、しゅつ、じゃく、じゅく、ちゃく、ちよく、きやく、きよく、ぎやく、ぎよく、ひやく、みやく、びやく

たとえば、「しょく」であれば、2ストロークめまでは通常通り【SH】と打ちます。ところで「しょ」は「オ段」です。オ【O】は左手の薬指です。そこで3ストロークめに、【O】の代わりに右手の薬指のキー【N】を打てば「しょく」と入力されます。

拗音のあとにツが来るものは、Tのイメージから、3ストロークめに右手中指を使います。

その他よく出てくるものだけにこの省略打ちができるようにしています。

上段

	薬指 R	小指 L
GR	ぎよく	ぎやく
CG	きよく	きやく
RG	りよく	りやく

中段

	薬指 N	小指 S
HN		ひやく
TH	ちよく	ちやく
NH	によく	にやく
SH	しょく	しゃく
PN		ぴやく

下段

	薬指 V	小指 Z	中指 W
BV	びよく	びやく	
MV	みよく	みやく	
ZM	じよく	じやく	じゅつ

例

出場【SHTZZ】、極力【CGRRGR】、入出力【STSHTRGR】、逆上【GRLZZ】、植物【SHNBUTU】

この動きのイメージの延長で、「しゅく」は【SHH】、「じゅく」は【ZMM】で打てます。

例

縮尺【SHSHS】、熟女【ZMMZMO】

ヤ行頻出文字列の省略打ち

ヤ行は打ちにくい割に特定のパターンの文字列がよく出てきます。それらを以下のよう
に楽に打つ省略打ちを用意しています。

	f	g	c	r	l	d	t	n	s	b	w
y	より	(ゆう)	いう	よる	やる	よい	よって	よく	やく	ゆび	いわれ

※2003/12/14 「いう」のストロークを「yc」に変更

例

予約【YOYS】、よくいうよ【YNYCYO】、酔って宵より夜よく焼く
【YTYDYFYRYNYS】

その他の頻出文字列の省略打ち(特殊拡張)

その他の頻出文字列を打つ方法を以下に列挙します。

これは便利だと思えるものから指が覚えてくれるでしょう。思い出せない場合は無理せず通常の打ち方で打っても何ら問題はありません。

代表的なものだけを以下に挙げます。全体は[ストローク一覧表\(リファレンス\)](#)⁶を参照してください。

読み	ストローク	読み	ストローク	読み	ストローク
から	C R	ついて	T C	について	N C
かた	C D	という	T D	ひじょう	H Z
され	S G	とく	T L	ひとり	H R
した	S C	ところ	T R	べつ	B T
しなくて	S N T	として	T G	また	M T
しなくては	S N W	とり	T F	まる	M R
しなくても	S N M	なくては	N W	もの	M N
しなければ	S N B	なくても	N M	ゆび	Y B
する	S R	なければ	N B	わたし	W T
それぞれ	S Z	など	N D	われわれ	W N

例(少しマニアックなもの)

一人ひとり【HRHR】、特別【TLBT】、固まる【CDMR】

などということについて【NDTDCTNC】、別のところから【BTNOTRCR】、しなくてもよくなった【SNMYNNZ】

6 『A C T』変換テーブル一覧 <http://www1.vecceed.ne.jp/~bemu/act/act_ref.html>